北海道乳幼児療育研究会
第38回研究大会プログラム

第１日目 10 月５日(土) 13:00～17:20 受付開始:12:00
第２日目 10 月６日(日) 9:00～12:30 受付開始: 8:45

会 場　北星学園大学 C館
札幌市厚別区大谷地西2丁目3－1

〈 北海道乳幼児療育研究会事務局 〉

〒002-8071 札幌市北区あいの里１条６丁目 1-2
拓北・あいの里福祉センター 1F
たくあいアクティビティ「むぅ(夢)」内　川合・北山・添田 宛
TEL　011-770-5520　FAX　011-770-5521
E-mail　t-kawai@sapporo-kyoudoufukusikai.jp

第１日目　2024 年 10 月 5 日(土)　13:00～17:20

13:00～13:10　**開会式**(1 階　講堂)

13:10～15:10　**基調講演**(1 階　講堂)

「家族個々の歴史」から、そだちの物語にふれる

講師　　日置　真世(フリー)
座長・まとめ　佐々木浩治(会　長)

15:20～17:20　**交流会型　トークセッション**

会場は、受付で各室の参加希望数を把握し、人数に応じて使用教室を定め、基調講演終了時に案内します。

部屋1　当事者の話から対話により学びを深める
担　　当:日置　真世(フリー)
話題提供:佐々木恵祐、三輪彩水

部屋2　保護者の話から対話により学びを深める
担　　当:細谷　優子(あしょろ子どもセンター)
話題提供:松﨑　享子

部屋3　支援者の話から対話により学びを深める
担　　当:玉手美和子(児童発達支援・放課後等デイサービス　きらりこ)
話題提供:佐井川友美(当別町子ども発達支援センター)
話題提供:山本恵里加(芦別市子ども発達支援係)

部屋4　フリールーム（テーマなし）
担　　当:佐々木浩治、市野　孝雄、中村　孝博

＊＊＊＊＊　**交流会**　＊＊＊＊＊

17:30～19:30　北星学園大学生協食堂　大学会館 3F

第２日目　2024 年 10 月 6 日(日)　9:00～12:30

9:00～ 9:30　**総会**(5 階 500 号教室)

9:30～12:30　**分科会**

◆　分科会１【保育】(5 階 502 号教室)

「ある親子のそだちの物語」からあらためて自身の日々の保育・療育を振り返る

- 親子のそだちの物語　　野島　彩（保護者）
- ある親子のそだちの物語から、現場からの視点
  中村　孝博(NPO 法人にしのさぽーと)
- 『ある親子のそだちの物語』に触れてあらためて保育者・療育者が自問すること
  柿原　勝(NPO 法人にしのさぽーと)・愛下　啓恵(札幌国際大学)

座長･･･　愛下　啓恵(札幌国際大学)

◆　分科会２【トークセッション】(5 階 500 号教室)

“保護者支援”について、様々な立場からの眺め、
考えを持ち寄ってもらっての対話ミーティング

- 医療の立場から　　佐々木美春(むすびめ)
- 福祉の立場から　　山口　麻絵（(福)静内ペテカリ　こどもサポートほっぷ）
- 教育の立場から　　久保田健一(江別第一小学校)
- 当事者の立場から　　大木　裕介
- 新人の立場からの感想　　佐々木龍之介(江別第二小学校)

座長･･･　北山　竜大(たくあいアクティビティ「むぅ(夢)」)

12:30　各分科会で閉会式

第 38 回研究大会テーマ （2024 年）

「わからなさ」に向きあう Ⅲ

～「家族個々の歴史」を聞き取り、そだちの物語にふれる～

趣旨

3年ぶりに対面で開催した昨年の研究大会は、「わからなさ」に向きあう Ⅱ」として一人ひとりの思いを受け止め、同時に空白の3年間の取り組みとそれを踏まえた新たな取り組みを語っていただき、コロナ禍を乗り越え新たな療育を再考する大切な時間を過ごすことができました。

「保育・療育には正解がない」と言いながらも、支援者はそこに存在する不安やわからなさをエビデンスベースの発達支援に拠り所を求めながら、それ故に支援の困難さを感じていることが多いと思われる状況が続いています。アカデミックな知識を学ぶ機会は多く知識は蓄積しているように思いますが、これらの知見に基づく支援のあり方には自信がなく、背中を押してほしいとの思いを抱いている支援者が多いのではないでしょうか。

まさに知と情のバランスが問われていると言えます。事例検討の場で「そういう見立て方もあるのか」とハッとしたり、「あなたの見立てで大丈夫ですよ」と言われて安堵し笑顔になったりする支援者が多いのは、その不安の表れのように感じています。

発達支援では、子どもと親家族一人ひとりの支援（家族支援）が大切なことは自明なのですが、それぞれにまんべんなく思いを漂わせながら支援を続けるとき、支援者はつねに知と情のバランスのとりにくさに悩み続けます。

第 38 回大会では、「わからなさ」に向きあう Ⅲ」として「家族個々の歴史」を聞き取り、そだちの物語にふれるということをテーマにしました。子どもと親とのかかわりは、一期一会の勝負という側面があるのではないでしょうか。一期一会の出会いを大切にし、その関係を深めていくことが家族支援につながっていくものと考えています。

家族の支援を行うとき、子どものそだちの物語を一生懸命に聞き取って考えようとします。子どもの育ちの背景を大切にしようとすると、親の物語に同じように関わることが難しくなり、結果親と支援者との信頼関係が作りにくくなります。一方で親の物語に引っ張られると、子どものそだちへの関心が弱まることもあります。家族個々の歴史を丁寧に聞き取りそれぞれのそだちの物語にバランスよく触れることはけっして容易ではありません。

そだちと関わりを家族ひとりひとりの物語として捉えるには、それぞれの歴史を聞き取り、感じ、そのうえでそれぞれのそだちの物語に触れることが、生活支援ひいてはそれぞれの発達支援につながるのではないでしょうか。そんなわからなさを「家族個々の歴史」と「そだちの物語」にふれながら一緒に考えてみませんか。